稽古における新型コロナウイルス感染防止対策について

九州大学剣道部関係者は、全日本剣道連盟ガイドライン等を踏まえて稽古での留意事項を遵守し、新型コロナウイルス感染防止に最大限努める。

1 稽古に参加するにあたって

○以下の者については、稽古への参加を不可とする。

・九州大学剣道部関係者以外の者（当面の処置とする）

なお、九州大学剣道部関係者とは、現役部員、指導陣、OBOGをいう

- ・基礎疾患のある者（参加する場合は、医師等に相談のうえ慎重に判断）
- ・体温が平熱を大きく上回っている者（37.5度を目安とする）、咳・咽頭痛などの症状がある者、その他体調が優れない者
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる者
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある者

2 稽古を始める前に○検温を行い、発熱がある場合は稽古しない。

○体調管理表に氏名・体温・体調等の記録を行う。

○手洗い、うがい、アルコールによる手指の除菌を行う。

○部室・更衣室内の密集を避ける。

- ・着替える際、他人との距離を2m以上取る
- ・部室・更衣室で十分な間隔が取れない場合、交代で使用する○マスクは、剣道場外でも着用する。
- ・剣道場内でも、稽古以外の時間はできるだけ着用する

3 稽古に当たって○稽古にあたっては、感染防止を考慮した計画を立てて行う。

○準備体操、素振り時は、原則一列で同じ方向を向き、向かい合わない。やむなく向かい合う場合又は2列以上になる場合は2 mの距離を取る。

○稽古を行う者は、飛沫飛散防止のため、面マスク及びシールドを必ず着用する。

・熱中症リスクが高まるため、窓の開放、扇風機の全台稼働、稽古時間の工夫、こまめな水分補給など、体調管理には万全の注意を払う○密集を避けるため、以下の事項を遵守する。

・対人稽古時、密集状態にならない様に配慮して稽古を行う

・休憩時間中は、他人との間隔をあけ、過度な接触、私語を慎む

・水分補給は各自持参の水筒等で行う○感染源となりうる口からの飛沫飛散を防止するため、以下の事項を遵守する。

・鏢迫り合いは避ける。練習中、やむを得ず鏢迫り合いとなった場合は、すぐに分かれるか引き技を出し、発声は行わない○感染のリスクを低めるため、効率的な稽古を行う

4 稽古後○稽古終了後、先生や先輩等に礼を行う際は、2 mの間隔をあける。

○稽古終了後は、面マスクをビニール袋に入れて持ち帰り、洗浄・除菌を行う。

○剣道具（特に面、小手）、使用済のシールドは、アルコール噴霧により消毒する。

○稽古着、手ぬぐい、竹刀は稽古終了の都度、洗濯や除菌を行うことを推奨。

・更衣室の洗濯機は、当面の間使用不可とする○稽古後も、手洗い、うがい、アルコールによる手指の除菌を行う。○現地集合現地解散とし、複数名で集まる行為や会食等は行わない。

5 感染が判明した場合○稽古の参加者が新型コロナウイルス感染症に感染、また感染が疑われる場合、速やかに以下担当に連絡する また、大学及び九州学生剣道連盟に速やかに報告を行う

〔担当者〕 主務 相川直毅(050-7542-1630)

6 その他○剣道具、竹刀、手ぬぐい、タオルその他用具は共用しないこと。

○常に全剣連ガイドライン等の状況を確認し対応する。

○各人は、普段の生活から新型コロナウイルス感染対策に努める。

以上